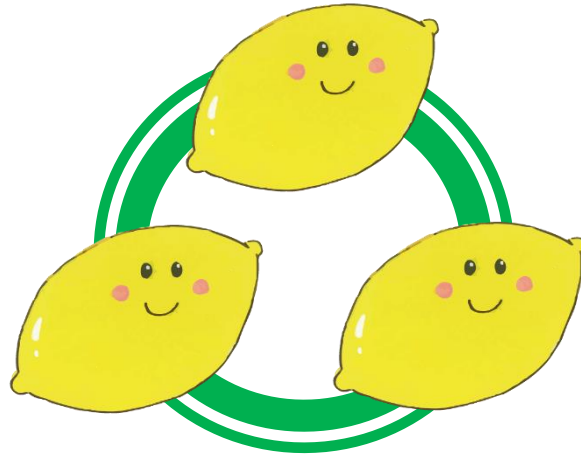


## 宇治市認知症アクションアライアンス

# れもねいど (Lemon-Aid)

### 設立趣意書



## 宇治市で暮らすみなさま、活動されているみなさまへ

宇治市は、平成27年3月21日に、全国の自治体として初めて「認知症の人にやさしいまち・うじ」を宣言しました。

『認知症の人にやさしいまち・うじ宣言』は、これまで宇治市が積極的に取り組んできた認知症施策を更に推し進めるとともに、認知症の人の視点に立ち、誰もがふるさと宇治で自分らしく尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現させるための約束を宣言したものです。（裏面「宣言文」をご参照ください。）

この宣言を実現させていくために、認知症を「自分のこと」として捉え、市民一人ひとりが認知症を正しく理解し、相手を思いやるやさしさをもって、自分のできるアクションを起こしていく、『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど (Lemon-Aid)”』を設立することといたしました。

認知症の人とその家族の声を大切にし、宇治市で暮らすみなさま、活動されているみなさまと共に、個人、団体を問わず力をあわせて「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現させましょう。

宇治市長 山本 正

### “れもねいど (Lemon-Aid)” に込めた想い

“れもねいど (Lemon-Aid)” は、宇治市の認知症事業のイメージである「れもん (Lemon)」に“手伝う・援助する”という意味を持つ「えいど (Aid)」という単語を組み合わせたネーミングです。宇治市全体が認知症の人に対して自発的にアクションを起こし、それが広がっていくようにとの願いを込めています。もちろん、さわやかな飲み物の「レモネード」にかけたネーミングでもあります。マークはネットワークとしてつながり、広がる様子を表現して、宇治市のれもんカフェキャラクター“れもんちゃん”が繋がったデザインです。

宇治市は『宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど (Lemon-Aid)”』として活動します。

## 宇治市のこれまでの主な取り組みとこれから

### 1. 認知症のイメージを変えるために

認知症の正しい理解が進む一方で誤ったイメージや偏見が残っています。「認知症あんしんサポーター養成講座」や「認知症を正しく理解するための連続講座」等を実施し、認知症の正しい理解の普及啓発を推進するとともに、それを実践できる人材を育成しています。

### 2. 認知症の人と家族が早期から適切なサポートが受けられるために

認知症コーディネーターを配置し、国が設置を進める「認知症初期集中支援チーム」をいち早く立ち上げました。通常を受診が難しい場合でも、早期からの認知症の人とその家族へのサポート体制を整えています。

### 3. 認知症の人が安心して様々な活動に参加できる社会を実現するために

認知症の人が初期の段階から適切で連続したサポートを受けることにより、認知症が進行しても安心して出かけられる社会をつくることができます。認知症の人とその家族、地域住民、専門職の身近な交流の場として、また、認知症を正しく理解する場として、「認知症対応型カフェ（れもんカフェ）」を開設しています。

そして・・・

これらの取り組みをとおして、今、認知症の人が、わたしたちに認知症とともに生きる思いを伝えていています。認知症の人が自ら語る姿は、これまでの認知症のイメージを大きく変え、「認知症の人にやさしいまち・うじ」を実現していく道筋を明示してくれます。

認知症の人が安心して参加できる社会こそが、「認知症の人にやさしいまち・うじ」であり、それは全ての人にとっても「やさしいまち」であると言えます。



宇治市は、認知症の人やその家族の声や意見を施策の立案や評価に反映させ、認知症の人の視点に立ったサポート体制を構築するために、全国に先がけて『宇治市認知症アクションアライアンス（※）“れもねいど（Lemon-Aid）”』を設立するに至りました。

#### ※認知症アクションアライアンスとは

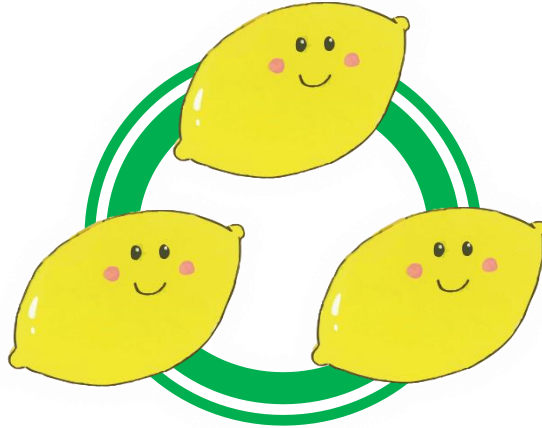
認知症は脳や体の病気によって、記憶や理解、判断などの認知機能が低下することで日常生活に支障をきたした状態をいいます。

認知症の人は、わたしたちと同じまちに暮らす「生活者」です。周囲の正しい理解とサポートによって、“できること”の可能性を大きく広げることができます。そのため、医療・福祉・介護といった専門的ケアの分野だけでなく、わたしたちの生活に関わるすべての分野で認知症を正しく理解し、それぞれの立場から出来ることを考え、行動（アクション）することが大切になります。

そこで、これまでの専門的ケアの分野での連携に加えて、市民や様々な業種が幅広く参加し、つながる広範囲なネットワークが必要となります。こうした取り組みは、すでにイギリスで先進的に取り組まれており、DAA「Dementia Action Alliance（認知症行動同盟）」と呼ばれています。

# れもねいど (Lemon-Aid) が目指すこと

宇治市では認知症を“自分のこと”と捉え、誰もがふるさと宇治で自分らしく尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現に向けて以下の取り組みを進めます。



## 1. 認知症の人にやさしい「まちづくり」

- 認知症の人やその家族の声を認知症施策の立案、評価に反映させていきます。
- 認知症の人を同じまちに暮らす「生活者」としてとらえ、まち全体でつながり、見守り、サポートする「しくみ」をつくります。

## 2. 認知症の人にやさしい「ひとづくり」

- 子どもから大人まで認知症の正しい理解を学べる環境をつくり、認知症の人やその家族をサポートする人材を育成します。
- 意欲のある人材が活躍できる「しくみ」をつくります。

## 3. やさしさの「Win - Win関係づくり」

- 「Win - Win 関係」とは、相手の Win (利益) を自分の Win として望む気持ちや、関係者みんなの Win を実現しようとする姿勢です。やさしさと思いやりの好循環を働きかけます。
- 認知症の人でもサービスや商品を購入する「お客様」です。お客様サービス向上、お客様満足度を高めようとする企業のアクションをサポートします。
- 企業のアクションが評価され、地域に PR される「しくみ」をつくります。

### あなたのアクションが「認知症の人にやさしいまち・うじ」をつくります

2025 年には、高齢者のうち認知症の人は 5 人に 1 人になると推測されています。認知症はもはや「全ての人に関わること (everyone's business)」になりました。

あなたの家族、近所の顔見知りの人、そしてあなた自身が、認知症になっても、馴染みの顔に囲まれ、行きたいところへ行き、会いたい人に会える。そんな、こころ豊かに暮らせる社会をつくっていくのは、わたしたち一人ひとりです。

あなただからできることがあります。思いやりのこころを持ったアクションは、認知症の人の心に届いて、お互いを笑顔にする力があります。

あなたのアクションが「認知症の人にやさしいまち・うじ」をつくります。

# 認知症の人にやさしいまち・うじ 宣言

悠久なる宇治川の滔々たるながれ、心安らぐ茶の香り、宇治には伝統と文化を大切にし、そこから新しいものを生み出し、わたしたちのまちを築いてきた風土があります。

超高齢社会を迎え、ある時は認知症の人を支える側として、そしてある時は認知症の当事者として、誰もが認知症とともに生きる時代になりました。

認知症を避けようとすることは、自分自身や周りの大切な人を避けることと同じです。認知症を受け入れ、その人のありのままの姿をしっかりと見ることによって、認知症とともに生きる技術、知恵、文化を築くことができます。

認知症になっても、これまでの人生で積み重ねた知識や経験を活かしてできることがたくさんあります。なにより、認知症の人が自ら語り、心豊かに暮らしている姿は、わたしたちの未来を明るく照らす道標になります。

わたしたちは約束します。

- 一、認知症の人の想いやその人らしさを尊重し、思いやりをもって行動します。
- 一、認知症を正しく理解し、世代や立場を超えてつながり、まち全体で支えます。
- 一、認知症の人が人生の最期まで安心して暮らせるまちを共につくります。
- 一、認知症になっても、希望や生きがいを持って認知症とともに生きていきます。

この約束をわたしたち一人ひとりが深く心に刻み、誰もがふるさと宇治で自分らしく、尊厳を持って、認知症とともに生きていける「認知症の人にやさしいまち・うじ」の実現のために歩み続けることを宣言します。



平成 27 年 3 月 21 日

宇治市長 **山本 正**

宇治市認知症アクションアライアンス“れもねいど (Lemon-Aid)”に関するお問い合わせは  
宇治市 健康生きがい課

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所内 ☎0774-22-3141

一般財団法人 宇治市福祉サービス公社

〒611-0021 宇治市宇治琵琶1-3 中宇治地域包括支援センター内 ☎0774-28-3686